

二〇二二年度 倉敷芸術科学大学 一般選抜

中期

〔国語〕

一、次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

現在、(A) 先進国と称される諸国で表面化している「右傾化」の問題は、一つにはこうした日常生活の持つ潜在的凶器性が表面化した結果と言えるのではないか。そのへんを反省してみる時期にそろそろ差しかかっているように思われる。

正直言って、ここ一、二年の間、国外では日本人の評判は落ちるばかりである一方、国内では威丈高な言動に酔いしれる日本人の数が増える、という不思議な現象が続いている。低下した日本人のイメージについて国内からなされる反論は、「やっかみ」論ばかりである。経済的な次元で言えば、日本人の日常生活の安定を支えるハンエイが、東南アジア諸国の住民の生活水準低下とどこかで切り結んでいることは、殆ど常識に属すると言って過言ではなからう。(B)、日常生活の経済的擁護の立場に立つ労働運動の側から、このアンバランスがどのように論じられているのであろうか。国内の労働者の生活水準さえ護って向上する努力さえしていれば問題が解決される、という楽観的な時期はもはや過去のものであろう。多少舌足らずな表現であるが、経済的な次元で我々の「日常生活」が帯びる凶器性を、(C) 発展途上国の住民の「日常生活」に対する恒常的圧迫の構造性の問題を、どのように捉えなおすことができるのか。この問題については、労資どちらかの側からも解決の緒は与えられていないようである。

ここから派生する問題が、現在、二つあるように思われる。その一つは、硬派の言論である。硬派の言論の頼もしさは、反対物を断固フンサイするその姿勢のわかりやすさにある。新左翼にせよ、身体障害者にせよ、あるいはソ連にせよ、国益を損なう可能性のある対象は排除されなくてはならない、というのが、今日、平均的ビジネスマンがもっとも受け容れやすい論理であろう。ケッコウ、象徴的次元では大いにやって下さい。しかしながら、こうした悪魔祓いは、(D) 心理療法にとどめておいた方がよいという事実を忘れない方がよい。この種の言論に酔う論客の筆法のうちに、我々は芸能の論理を読みとり、パフォーマンスを愉しむゆとりを、そろそろ身につけはじめてはいかかなものであろうか。(E)、あまり近視眼的にこの種の論理につきあうと、「日常生活」の弾力性の欠如、そこから派生するヴァルネラビリテイ再生産の願望の助長につながる危険があるからである。少なくともこの種の威丈高な論理につき合う人は、そうした論理を愉しむゆとりが保てる程度に、自らの「日常生活」に弾みをつけておく必要がある。つまり、「影」「他者」との対話の可能性に感性を開きながら、耳を傾ける必要がありはしないか。

(F)、「日常生活」の貧しさの反映として、外界に対するパラノイア的・ヒステリー的な反応の衝動のなかに簡単に取り込まれてしまう怖れがあり、そのキザしは既に今日、我々の周りに色濃く立ち籠めている。例えば「イエスの方舟」をめぐる報道の過熱現象には、そうした時代の身振りを想わせる調子がくつきりと表面化していて、印象的であった。(中略)

貧血状態の「日常生活」から派生するもう一つの問題は、日本人の「日常生活」が、このままでは、他の諸国の住民にはともに護るに値するようには見えなくなるかもしれないという事実である。

十月の中旬から下旬(一九七九年の)にかけて来日していたフランスの美術ビビョウ家(として知られる)アラン・ジュフロアが言っていた。——正直言って、今日ほどフランス人の間で日本人が嫌われている時代はないかもしれない。それを日本についての無知とか、日本の経済的進出のせいにするのは簡単である。しかし、問題はそこにはなさそうである。日本が、知的・芸術的なレヴェルでも、人間についての理念についての論議でも、いつまで経っても猿真似ばかりで何らの寄与もしないことに、フランス人がいらいだち我慢できなくなっているというところに本質的な問題がある。フランスのことなど日本人が勉強すればするほどフランス人は馬鹿にする傾向がある。

(※「イエスの方舟」とは日本で一九七九年から一九八〇年にかけて発生した信仰集団であり、マスコミに取り上げられた。)

(山口昌男『文化の詩学Ⅰ』による)

問一、波傍線部 a～e のカタカナを、漢字に改めよ。

問二、(A) (F) の空欄に入る最も適切な語を次の中から選び、記号で記せ。

ア さもなければ イ というのは ウ いわゆる エ しょせん オ しかし カ つまり

問三、傍線部 1「構造性」について、本文中より抜き出して五十字以内(句読点は一字に数える)で説明せよ。

問四、傍線部 2「ヴァルネラビリテイ」とはどのようなものか、記せ。

問五、傍線部 3「いつまで経っても猿真似ばかりで何らの寄与もしない」について、あなたの考えを記せ。

二、次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

とうもろこしの収穫には、優も参加した。誰に頼まれたわけでもないが、(A)、畑に出てみたくなったのだ。

小学校以来の(L) わら帽を被り、(U) にタオルを巻いて、大きく実ったとうもろこし畑に分け入っていくと、

G にも似た、不思議な感覚を覚えた。

幼稚園の夏休みに、この村に遊びに来たことがあった。祖父が、田圃にはいろいろな生物がいることを教えてくれた。最初はタニシ狩りにはまり、(B)、どじょうやカエルに夢中になった。

大きなハサミのアメリカザリガニを初めて見た時は怖かったが、意を決して背中を掴み、捕獲した。ザリガニは万歳をしながら抵抗したものの、ハサミが(V) に届くことはなかった。走って家に帰り祖父に見せると、しわしわの大きな手で(W) を撫でくれた。

祖父と一緒に畑に入って、トマトやきゅうりの収穫を手伝ったこともあった。幼い優は、辺り一面の真つ赤なトマトに興奮して、びよんぴょん畑中を飛び回った。こんなに一杯あったら、一生おじいちゃんや食うに困らないと、妙な安堵感を子どもなりに覚えた。畑には、青虫やシャクトリ虫もいたが、まるで気にならなかった。穫れたてのきゅうりを、沢の冷たい水で洗い、味噌を塗って食べた時のうまさは今でも鮮明に憶えている。

(C) 小学校に上がる頃から、祖父の家には行かなくなった。都会育ちの母が田舎暮らしを嫌ったのと、夏休みには塾に通わされるようになったからだ。高学歴の母は、息子に英才教育を施そうとした。

不思議なもので、学校の成績が上がるにつれ、食べ物の好き嫌いが激しくなった。幼稚園の頃は問題なく食べられた人参やキャベツも、嫌いになった。虫に対しても(D) アレルギーを持つようになり、大丈夫なのは、セミやキリギリスまでで、カマキリや蜘蛛、幼虫類はまるで受けつけなくなった。以来優は、大人になっても野菜嫌い、虫嫌いのままで。

(M) が赤みを帯びた完熟とうもろこしは、もぎ取る際にそこその力が必要だ。いくら野良仕事に慣れているとはいえ、年寄り連中には(X) が折れる作業だろう。その証拠に、近くで作業していたうのばあさんや弥生ばあさんが、早くも手を止め、背筋を伸ばしている。

「今日は特別暑いですから。木陰で休んで下さい。この辺りは、おれが穫っておきますから」

「なんのこれしき。引き合いがいっぱい来とるんだらう。とうもろこし農家なんて、幕悦にだつてないからね。頑張つて穫らなきゃ」

「んだよお。村の命運がかかってるんだから。休んでなんていらねえよ」
こういう年寄りを前に、今まで一度も畑仕事をしてこなかった自分が、後ろめたくなった。現場に出ない理屈なら、何通りでも用意することができたが、理屈を超えたところに生まれる連帯感というのが、確かに存在する。

ふと見ると、とうもろこしの皮の間から、気味の悪い生き物が(Y) を覗かせていた。二センチほどの小さな芋虫。アワノメイガという、とうもろこしによく付く害虫だ。

一瞬背筋がざわついたが、我慢して見ていると、とろとろ動いている様は、さほど恐ろしいものでもないと感じてきた。この五倍の大きさがあつたら分らないが、この位のサイズなら問題はない。

横から皺くちやな手が伸びてきたかと思うと、小さな幼虫を掴み上げた。

「晴ちゃんは虫が苦手だつて、美穂ちゃんが言つてたから」

うのばあさんが、地面に落とした虫を踏み潰しながら微笑んだ。

「農薬の量、減らしてるからね。どうしても(N) が付いちまうんだね」

獣に虫。農作物はあちこちから狙われている。猿や芋虫に食われる心配のない(O) を作っている方が、どれだけ効率がいいか。他の茎からも、害虫は出てきた。しかしそれはほんの一部で、大部分のとうもろこしは、(P) もたわわに実っている。

収穫した第一弾のスイートコーンは、すべて市場で捌けた。もちとうもろこしは、三割を市場に卸し、残りを直販に回した。ノスタルジー派から「ベジタ坊」や「野菜のくず」を支持するアキバ系若年層まで、もちとうもろこしは、幅広い購入者を獲得することに成功した。

第二弾、そして最後の収穫も滞りなく行い、いずれも完売した。とうもろこし以外にも、小松菜や葉ネギ、ほうれん草などの葉物、トマトやきゅうりなどの果菜も大量に収穫し、そのすべてを農協を通さず、売り切った。

九月末時点での営農組織の収益は、優が予想した樂觀ベースを上回るほどの勢いで、村人たちは、(E) 手にしたことのない現金収入に、小躍りせんばかりだった。

(黒野伸一『限界集落株式会社』による)

問一、波傍線部 a ~ f の読みを、ひらがなで記せ。

問二、(A) ~ (E) に入る最も適切な語を次の中から選び、記号で記せ。

ア ついぞ イ 何となく ウ いつしか エ ところが オ 未曾有の カ そのうち

問三、(L) ~ (P) に入る最も適切な語を次の中から選び、記号で記せ。

ア 虫 イ 枝 ウ 自然食品 エ 工業製品 オ 穂 カ 麦

問四、(U) ~ (Y) に入る最も適切な語を次の中から選び、記号で記せ。

ア 頭 イ 顔 ウ 首 エ 皮 オ 指 カ 骨

問五、G に入る最も適切な語を本文中から選び、記せ。

問六、傍線部 1「理屈を超えたところに生まれる連帯感」とは何か、具体的に記せ。

問七、傍線部 2「営農組織の収益」について、優はこの村の営農組織の収益にどのような貢献をしたと考えられるか、記せ。

